

初心

2013年新春号

平成25年1月発行
年2回刊
題字/福田富一 書

(発行所)

福田富一
暮しと政治研究所

〒320-0026
宇都宮市馬場通り2丁目1番12号
TEL 028 (633) 1111
http://www.tomikazu.com

「チームとちぎ」のリーダーとして

栃木県知事 福田富一



復興から未来へ一歩

―5度目の巳歳・年男―

平成25年の新春を寿ぎ、心よりお慶び申し上げます。

今年の干支は「巳」、「蛇」でございます。私にとっては5度目の年男となりました。「竜頭蛇尾」ではなく「有終完美」の年を目指して参ります。

ところで「蛇」は脱皮をします。再生復活・知恵・生命力の象徴と言われます。万物が開花する時であり、水神の使いとして農耕に深く関係もしております。

大震災からの復興を成し遂げ、県民誰もが存分に活躍をし、万物が実り、復活・再生・躍進の栃木にして参りたいと存じます。旧に倍してご指導ご支援賜りますよう宜しくお願い致します。

―3期目の当選―

昨春秋の知事選挙では、後援会の皆様には県内各地で大変お世話になりました。私にとつては10回目の選挙をお陰さまで勝利することができました。

(1) 当選すること、
(2) 前回の投票率を上回ること、

(3) 得票数も伸ばすこと、の3つの目標を掲げましたが、いずれも達成することができました。これも後援会の皆様のきめ細かなご支援のお陰と

心より御礼申し上げます。

―公約達成に向けて―

選挙期間を通じてお聴きした、県民の皆様の声をしつかり受け止め、「元気度 日本一 栃木県」の実現を目指して、

「災害に強い」とちぎ」
「人が輝く」とちぎ」
「支え合い思いやる」とちぎ」
「健康長寿」とちぎ」
「成長力あふれる」とちぎ」
「環境を守り生かす」とちぎ」
「揺るぎない基盤」とちぎ」
の7本柱を中心とした取り組みで栃木を元気に盛り上げて参ります。

―今年のとちぎの元氣―

栃木県が誕生して140年の節目となる本年は、県民の日のイベントも、例年に増して郷土意識を高められる催しとする工夫も致します。3月には第69回冬季国体の1年前イベントも予定しています。

夏にはいよいよ井頭公園1万人プールの大人用施設もオープンし、すでにオープンしたちびっこプールと併せ、震災から復興し、「海なし県とちぎ」に大きな歓声を呼び戻すこととなります。

スカイツリー内アンテナショップ「とちまるショップ」も2年目を迎えることになり、尚一層の県内観光地への誘客促進や、本県ブランド力の向上を図ります。昨年12月には、

いちごの新品种「スカイベリー1」が初出荷となり、日本一の生産量を誇る「いちご王国とちぎ」を支える新たなスタートに育てて参ります。

―年頭の県庁では―

仕事初めには、改めて職員に次の3点を指示致しました。
(1)「現場主義の徹底」・一人ひとりが県民の思いや願いを真摯に聴き、肌で感じることで、真に何が求められているのか見極めよ。

(2)「スピード感と決断力」・将来を見据え、「県民益」を判断基準として、スピード感を持って果敢に決断していくことが必要。そのためオール県庁の視点で庁内の連携を積極的に図ること。

(3)「発信力」・本県は私も含め職員もアピール下手である。真の魅力・実力を積極的にアピールしていかなければ地域間競争に勝てない。「メッセージ力」を高め、効果的に情報発信し、「県庁と県民との距離」を縮められれば、「元気度 日本一 栃木県」の実現につながる。と訓示。

改めて、「チームとちぎ」のリーダーとして、本県の持つ力を結集し、本県を新たなステージに高めて参ります。皆様方のご健勝とご活躍をお祈り申し上げ、新年の挨拶と致します。

日本一元気なとちぎに

福田県政二期目スタート

11月18日に投開票された知事選で3選を果たした福田富一知事は20日、県庁に初登庁し、実質的な3期目のスタートを切った。

午前10時半前、福田知事はロビーに集まった約300人の県職員らに拍手で迎えられ、女性職員からばらの花束を笑顔で受け取った。

「東日本大震災からの復興を仕上げる段階に進める」と述べ、さらに「選挙戦で改めて県庁と県民の距離が遠いと感じた」と話し、その距離を縮めるため、①「現場主義の徹底」②「スピード感と決断力を持った

県民目線の県政を約束

福田富一知事が初登庁

11月18日に投開票された知事選で3選を果たした福田富一知事は20日、県庁に初登庁し、実質的な3期目のスタートを切った。

午前10時半前、福田知事はロビーに集まった約300人の県職員らに拍手で迎えられ、女性職員からばらの花束を笑顔で受け取った。

「東日本大震災からの復興を仕上げる段階に進める」と述べ、さらに「選挙戦で改めて県庁と県民の距離が遠いと感じた」と話し、その距離を縮めるため、①「現場主義の徹底」②「スピード感と決断力を持った

所信表明演説

県議会の12月通常会議が11日に開会し、福田知事が所信表明に臨み、「県民、市町、関係団体などの力を結集し、日本一元気なとちぎの実現に向けて全力で取り組む」と決意を述べた。



3選後の初登庁で職員から花束を受け取る福田富一知事

五輪メダリスト 萩野 安藤 鮫島 海老沼 平野 選手 県スポーツ功労賞授与

ロンドン五輪でメダルを獲得した、栃木県出身の5選手に、福田知事から「県民に勇気と感動を与えた」として、スポーツ功労賞が贈られた。

8月10日、競泳男子400メートルで銅メダルに輝いた作新学院高3年の萩野公介選手が表彰を受け「さらに上を目指したい」と話した。

16日、初の銀メダルを獲得したサッカー女子「なでしこジャパン」の安藤梢選手は、「地元の応援は特別で、自分の力になった」と笑顔。鮫島彩選手も「優勝を逃した悔しさはあるが、次につながる大会だった」と話した。

柔道男子66キロ級で銅メダルとなった海老沼匡選手は「次こそ金メダルを取りたい」と、次回五輪での活躍を約束した。

17日、卓球女子団体で銀メダルを獲得した平野早矢選手は、「今回の五輪で『自分はまだまだできるんだな』と感じた。次の五輪に出たいと思う」とさらなる飛躍を明言した。



右上|| 表彰後、福田知事に銅メダルを披露する萩野選手(右)

左上|| 表彰後、銀メダルを手に笑顔を見せる安藤選手(右)と鮫島選手

右下|| 福田知事から表彰を受ける海老沼選手(左)

左下|| 表彰後、銀メダルを手に笑顔を見せる平野選手(右)

処分場 国が早期整備を 関東知事会

10月23日、10都県が参加する関東地方知事会(会長・川勝静岡県知事)の定例会議が福島県郡山市で開かれた。放射性物質を含む指定廃棄物の最終処分場の早期設置について、国が責任を持って推進することを求め

10月23日、10都県が参加する関東地方知事会(会長・川勝静岡県知事)の定例会議が福島県郡山市で開かれた。放射性物質を含む指定廃棄物の最終処分場の早期設置について、国が責任を持って推進することを求め

問題について「県内の与党国会議員でも(処分場を)『福島に造れ』と言う人がいる。国会が全会一致でス

このページは、下野新聞、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞、産経新聞、東京新聞、日本経済新聞、の記事を抜粋させていたたきました。

知事 処分場候補地を初視察

住民と意見交換

国が矢板市塩田の国有林を放射性指定廃棄物の最終処分場候補地に選定した問題で、福田知事は11月28日、9月の選定後初めて現地入りし、遠藤矢板市長や反対組織の小野崎会長らと塩田ダムを視察。湿地や湧水の状況などを約1時間かけて確認した。その後塩田公民館で住民約200と意見交換に臨んだ福田知事は、安全性などをめぐり住民から懸念や不安を伝えられ一定の理解を示しつつ、「本県の指定廃棄物は福島に次いで多く、各地で保管場所の確保に苦慮している。国の責任で最終処分場を速やかに設置し安全に処分すること



処理場候補地周辺の水源地を視察する福田知事(右端)

が必要だ」と理解を求め、住民が国に求めている白紙撤回については「次の案が決まっていけない中では知事の責任放棄になるのでできない」と同調することを否定した。

11月29日、福田知事は園田環境副

環境副大臣ら知事訪問

平成25年1月4日、政権交代に伴い、井上環境副大臣らが就任挨拶で来庁。会談した福田知事は「本県の立場、矢板市塩田地区の皆さんの思いを改めて伝えた。井上副大臣からはこれまでの選定過程を確認した上で、最終的な方向付けをしていきたいとの発言があった」と語った。



那須烏山市の烏山南那須地区を結ぶ県道(宇都宮那須烏山線)の高瀬トンネル(430m)が完成し12月22日、福田知事(左から3人目)をはじめ多数の来賓のほか、関係者約120人が出席して開通式が行われた。

東奔西走の日々

- ◇7月14日 ときぎ元気フォーラム 芳賀/「基幹交通、段階踏み検討」
- ◇7月19日 高松市で全国知事会議/「喫緊の課題について議論を深めることができた」と知事。
- ◇7月31日 茨城県庁で北関東磐越5県知事会議/「外国人誘客について賛同を得られたのは一つの成果」と知事。
- ◇8月6日 東京で知事会社保委/「国の支援戦略で新たな雇用機会の創出が不可欠」と福田富一委員長
- ◇8月10日 佐野市でときぎ元気フォーラム in 松陽高/「地域活性化について議論」
- ◇8月22日 造幣局(大阪市)で本県記念貨幣打ち初め/「貨幣発行を機に栃木の魅力をもっと知ってもらいたい」と知事。
- ◇8月25日 ときぎ元気フォーラム in 那珂川町/処分場の事業の理解促進と早期着工に向け、さまざまな意見を参考に組み合わせたい」と知事。
- ◇9月2日 那須烏山市で2年ぶり総合防災訓練/「大震災を教訓に、より具体的、実践的な訓練と対応力の向上を目指した。意義ある訓練となった」と統監の福田知事。
- ◇9月28日 東京で「ときぎのいいものまるごと商談会」/豊富な食はとちぎの自慢。流通面でも絶好の環境。
- ◇10月6日 日光市の湯西川ダムの完成を祝う/「豪雨被害や少雨化の中で大いに力を発揮してくれる」と祝辞。
- ◇10月10日 東京で県産銘柄牛をPR/「安全安心のおいしい肉を食べてもらえるよう検査体制や情報発信を強化したい」と知事トップセールス。
- ◇11月29日 鹿沼ソーラーファーム竣工式/「県内への再生可能エネルギー導入を促進し、災害に強い拠点として、大きな波及効果をもたらす」。
- ◇11月30日 宇都宮ブリッツェンに県スポーツ功労賞/「設立4年目での日本一おめでとう」と知事が祝福。
- ◇12月11日 年末年始の防犯呼びかけ/特別警戒の初日に知事らパトロール

年頭訓示

現場主義の徹底を

平成25年1月4日、福田富一知事は仕事初めで幹部職員約120人を前に年頭訓示を述べた。結城袖姿で登壇した福田知事は冒頭、シャープ矢板工場の規模縮小、ロンドンオリンピックでの本県選手の活躍、とちぎまるショップのオープン、渡良瀬遊水地のラムサール条約湿地登録、イチゴの新品種・スカイベリーの披露

露目、自身の3期目当選など、昨年印象に残った出来事などを振り返った後、職員に対し「現場主義の徹底」「スピード感と決断力」「発信力」「健康への留意」「臨機応変な対応」の5つを心に留めて職務に励むよう呼び掛け、「気負わなくてもよいが、気合いを入れて仕事に臨んでほしい」と奮起を促した。

新春記者会見

福田知事は4日、県庁で新春記者会見に臨み、3期目を迎えて全身全霊で県政運営にあたる決意を示すとともに、新政権には「強いリーダーシップの下、実行力を発揮し国民生活向上のため国政運営を期待する」と注文。新年の抱負では、東日本大震災からの復興の仕上げ、新ときぎ元気プランの着実な実行、高等特別支援学校の着工準備、総合スポーツゾーン全体構想策定、ハード・ソフト両面での減災・防災対策などに意欲を見せた。



スカイベリーお披露目

12月6日、県は「とちおとめ」に続く主力品種として開発したイチゴの新品種「スカイベリー」の初出荷を記念して、県庁で「お披露目会」を開き、集まった市民ら450人が、採れたてのスカイベリーを試食した。スカイベリーは、とちおとめよりも果実が大きく、糖度と酸味のバランスも良いのが特徴。

お披露目会で福田知事は「約17年間、10万株以上の選抜を重ねてたり着いた新品種で、形が大きく、何ととってもおいしい。イチゴ王国栃木の大スターに育てたい」と挨拶。





11/18 再選を決め、万歳する福田富一知事と福田宏一後援会総連合会長(左)

県内知事選史上で最多得票

福田富一知事3期目当選

11月18日に投票された知事選で福田富一知事が3期目当選を果たした。福田は17日間に及んだ選挙戦の勝利を喜び、駆け付けた市町長や県議、支援者らと万歳三唱。「子育て支援や健康長寿への取り組み、在宅医療の充実など、公約を4年間ですべて実現できるように、精いっぱい取り組む」と3期目の抱負を述べた。福田は昨年5月に3選を目指して出馬を表明。県内旧市町村単位にある後援会組織が万全の選挙態勢を構築。自公両党や各首長、約240の各種団体からの支援を背景に、2期8年で手掛けた行財政改革

文化講演会

アグネスチャンさんを迎えて

毎年恒例の文化講演会が8月31日(金)、宇都宮グランドホテルを会場に約600名の参加者を得て開催された。歌手でエッセイストのアグネス・チャンさんが『明るくさわやかに生きる』と題して講演。ご自身の乳がん体験をもとに、「今の日本、2人に1人ががんを患う現状がある。現在の乳がん検診率は約30%。早期発見の為に『チャンスがあつたらではなく、チャンスがなくても、チャンスを作つても』検診を受けることが必要」と、定期健診の重要



もちつき大会

1500名の参加者を迎えて

12月2日(日)、恒例の『もちつき大会』が今宮公園で開催された。昭和58年に後援会や地域の皆様との交流を目的に始められたのが最初だが、今年30回目を迎えた。当日は、つきたての餅、けんちん汁、しぼりたて牛乳、綿あめその他、30年の感謝を込めて、お子様向けに「スーパードールすくい」「輪投げ」等のアトラクションが準備され、【石窯によるピザ】【ポップコーン】も実演し振舞われた。好天にも恵まれ、福田知事3選のお祝いムードと相俟つ



『福田家の茶の間』

初春のおよろこびを申し上げます。昨年の知事選挙では大変お世話になりました。夫だけでなく私の為にも大勢集めたり、一緒にご挨拶に歩いたり、どこに行っても良くして頂きました。感謝申し上げます。



お陰様で今年の元旦も夫と共に皇居・正殿松の間での「新年祝賀の儀」に参列した(写真は皇居前広場にて)。

しないが、「私だって忙しいのよ」と、内心思っている。するとますます夫のいらいらが募る。お互いに余裕のない年だった。

私の誕生日に夫と子供達から「おめでとうメール」が届いた。「お陰様で元気に仕事に打ち込めます。これからも仲良くね」と夫。「そろそろ自分のやりたいことを始めたら、二男からである。何を生意気言ってるのと微笑みつつ、まだまだ先になるだろうと思う。夫には元気に機嫌良く仕事をしてもらいたい。その為にももう少し優しく労わってあげなくてはと反省した。新年早々知人からの電話で「忙しそうですね」と聞かれ、「はい」と答えると、「何れ忙しく過ごしていたことが懐かしく思える日がきますよ」と言われた。実感のこもった言葉に「今を大切に過さなくては」と夫と語り合った。

編集後記

昨年の知事選挙では大変お世話になりました。

「自分一人が忙しくて大変だ」と言わんばかりの態度をとることがある。私は反論は

家にあらずんば人にあらず、まさしく、政権与党となった民主党の3年3か月の姿である。世間も同じ評価だったのだと納得した。

知事は『気配りの人』と言われていて。県民のためなら、政党を問わず、誰とでもうまくやっつけていける人である。その知事が大変苦労した。価値観の相違だろう。これからは本領発揮。引き続きご支援を!

中、県内の知事選史上最多得票で当選できましたことは、後援会の皆様方のご支援のお陰と深く感謝申し上げます。

知事選後に執行された衆議院選挙では自民党が勝利し再び政権交代した。某新聞が民主党の凋落ぶりを、平家物語になぞらえて書いていた。『盛者必衰の理をあらわす、おられる人も久しからず』平

◆福田富一後援会総連合会事務所
宇都宮市馬場通り2-11-12
電話028(6333)1111
FAX 028(6333)1110